

10. 京田辺市史の文書調査

東 昇

1. 概要

京田辺市においては、2014年度から歴史史料調査、2017年度から市史編さん事業を行っている。京田辺市との連携協定により、文学部歴史学科が協力し、多くの歴史学科教員および学生・院生が参加し各種調査等を進めている。

2022年度は、文化情報学ゼミを中心に編さん事業に参加した。その活動内容としては、近世文書の調査・分析、近世史執筆内容検討会などが挙げられる。調査参加者は、東昇(教員)、竹中友里代、山田洋一(以上、特任講師)である。

2. 近世史執筆内容検討会

本年度も、コロナ流行によりオンライン中心の調査・研究会となった。中世・近世部会の部会員・市史編さん室職員が調査・研究報告を行う近世史執筆内容検討会は、2019年11月から実施され、すでに15回開催されている。本年度は、以下のように各文書・現地調査で判明した成果を報告した。

東昇「文久3年禁裏御料上村の御触書」

中川博勝(中世・近世部会員)「大住村守岡家の守札」

山田洋一「市域領主蜷川家と高木村領について(2)―〔蜷川家用人よりの書簡綴〕を中心に―」

松本勇介(市史編さん室)「『京田辺市史資料編第2巻中世・近世資料』の掲載候補の検討(2)」

幸川玲(地理部会調査助手、府立大学4回生)「文政期山本村における田畑と屋敷」

竹中友里代「秋元家文書神道裁許状の再考と宮座争論から戊辰神威隊へ」

中川博勝「旗本天野領「御用諸留帳」にみる大住村関連記事(1)」

阪東寛之(市史編さん室)「中世後期の京田辺市域関係史料について」

松本勇介(市史編さん室)「『京田辺市史資料編第2巻中世・近世資料』の掲載候補の検討(3)」

2022年5月23日には、東が「文久3年禁裏御料上村の御触書」について報告した。上村は、禁裏御料・京都代官(幕末は守護職役知領)であった。文久3年「御触書写帳」を対象に、まず差出別に禁裏御料(京都代官)触・京都町奉行(雑色松尾左兵衛)触に分類し、さらに禁裏御料触の内容を廻状・上納指示に分けた。つぎに、山城国における諸触の伝達を行った京都町奉行の触を京都町触と比較し、「覚」という様式などが用いられる点などを指摘した。

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
